

令和8年度 山口大学大学院人間社会科学研究科(修士課程)共創科学専攻

入学者選抜学力検査問題 解答例

(1) 社会的弱者が生まれる背景について、社会の仕組みに関する視点を踏まえて説明する。社会的弱者とは、何らかの社会的不利益や不平等の状況にある人々を指す。社会的弱者が生まれる背景は多岐にわたるが、さまざまな社会的要因が複雑に絡まりあうことで、社会リソースを享受しにくいことが背景になっていると言える。社会リソースを得るための環境に不平等があったり、環境をうまく利用できない状況があるとしたら、従来の社会の仕組みの想定を外れた人々が社会的弱者となっているだろう。従来の社会的ルールは、多数派の間で共有されていることが多いが、その際に無意識に、時に意識的に除外視される少数派が社会的弱者になり得る。

ここで具体例として、障害者支援を挙げる。障害のある人(以下、障害者)への支援の必要性は、一般的な施設やサービス等の利用が難しいという視点から語られることが多い。その文脈において支援の必要性は、難しさや出来なさを補填するために示されるが、そもそも施設やサービスの在り方の汎用性の低さについては触れられることは少ない。例えば聴覚障害者への支援は、聞こえることを前提とした場面で、聞こえにくいことを補填するために実施されるのである。つまり、そもそも提供されるサービスでは聞こえない・聞こえにくいということが想定されていないために、聴覚障害者は情報へのアクセスが難しくなり不利益を被ることになる。このように、多数派を主として想定された仕組みでは、従来の方法での対応から零れ落ちる少数派がおり、この仕組みに当てはまらない人々が社会的弱者となっていると言える。

社会的弱者への対応は、従来の方法の対象外のため、それまでのやり方とは異なる、特別な方法がとられることも多い。障害学生支援に関連づければ、特別な支援の実施は、想定されていなかっただけに負担感につながることも多い。また対応すべきという意識に、対応できるかという不安感が勝ることもある。これらの負担感や不安感は、障害のある人への対応をさらに難しくする要因の一つとなっている。

多様性への理解が進む中、従来の仕組みに収まらないケースが散見されると同時に、新しいルールが混乱を招くケースもみられる。いかに社会の成員の多様性を想定するか、より多くの人の納得が得られるような環境を作り出せるのかに、ルール作りや制度設計の難しさがある。

(2)(1)で述べたように、社会的弱者は、従来の仕組みの想定から外れるために社会リソースを享受しにくい状況にあるとするなら、社会リソースを提供する仕組みを工夫する必要があると考える。従来の方法ではカバーしきれない点について特別に対処しながらも、社会的弱者と関わる人々が互いに負荷なく共生できる環境を目指したい。

私は、大学院では、障害などのある人の支援の仕組みについて学びを深めたいと考えている。特に、支援リソースや周囲の人々の協力を得やすい環境整備という点から、以下の3点を挙げる。

①ICT機器の利用

近年では、スマートフォンやパソコンなどの機能をうまく活用することで、障害のある人自身も情報を得やすくなったり、支援の経験が浅くても支援に関わることが容易になっている。このことは、支援の負担感や不安感を軽減する可能性を持っており、情報弱者を生みにくい環境、支援を受けにくい環境の是正に繋がると考える。

②ユニバーサルデザインの思考による環境整備

障害者差別解消法では、障害の「社会モデル」が採用されており、障害者を、障害や社会的障壁により制約を受ける状況にある者としている。障害は、障害者個人の問題でなく、社会的障壁によって生まれるという視座に立てば、環境整備の重要性がより鮮明になる。より多くの人にとっての使いやすさを志向するユニバーサルデザインの考えを参考に、従来の仕組みを見直すことで、汎用性の高いものに更新していくことが有効と考える。

③気軽にかかわれる仕組みづくり

想定されていない状況が、社会的弱者を生むとすれば、多様なニーズや支援方法を知る機会が重要と考える。研究成果を分かりやすく広く伝えることで、障害者支援の状況を多くの人に知ってもらえれば、理解や協力を得ることができるかもしれない。障害や支援を必ずしも「知らないだれか」の話ではなく、身近に感じる工夫ができるかもしれない。